

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	引野ひまわり学園 児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 7日		～ 令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59名	(回答者数) 47名
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 7日		～ 令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の状態や活動内容などに対して、職員の配置数が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園児クラスは国の配置基準（園児4名に対し職員1名）を上回る（園児3名に対し職員1名）手厚い配置を行っている。 ・お子様の状態や活動内容に合わせて、加配の職員の配置を柔軟に決めている。 	現在の取り組みを継続する。
2	生活空間は清潔で明るく、お子様に分かりやすい構造化された環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様と職員の動線に配慮し安全に活動できる設計と、お子様が使いやすい設備になっている。 ・園庭が広く、全員が屋外に出ても余裕を持って遊べる広さである。 ・毎日、時間を設定して清掃し、清潔を保つよう心掛けている。 ・個人のテーブルやパーテーションなどを使用して一人ひとりにあった構造化を心掛けている。 ・スケジュール（1日・週間・月間）や絵カードコミュニケーションなどを個人に合わせて取り入れている。 	現在の取り組みを継続する。
3	支援において、PDCAサイクル【アセスメント、目標設定、実行、振り返り(改善)】が機能しており、適切な支援を継続的に提供することができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化された発達検査や行動観察を行い、お子様の状況を保護者と共有している。 ・保護者やお子様の希望を確認し、児童発達支援管理責任者が児童発達支援計画を作成している。また担当職員がポータージョブ教育支援プログラムを下に、短期～中期目標を立て、計画に沿った支援を行っている。 ・年2回のモニタリングにより、児童発達支援計画の進捗状況の確認及び支援内容の見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みを継続する。 ・より適切な計画が立てられるよう、お子様の発達や障害特性、行動の見方（行動分析）など、研修会への参加やコンサルテーションなどを積極的に取り入れ、今後も専門性の向上に努める。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価の機会がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・以前までは北九州市の指定管理施設として、市のモニタリングが行われていたが、事業団立に移行してからは第三者の外部評価を行う機会が無くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市福祉事業団本部と連携し、外部からの評価を検討していく。 ・専門家のコンサルテーションを受けるなど、外部からの意見を取り入れるよう努めている。
2	医療的ケア児の入園希望はあるが、状況によって受け入れが難しい場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が不在のため、保育士だけでは医療的ケアが必要なお子様へ安全な環境を提供できない。 ・現段階では緊急時に医療的な対応ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の通園可能なケースについては、積極的に受け入れを検討していきたい。 ・状況に応じて保護者同伴での保育など、保護者の協力を得て対応する工夫が必要と考えている。
3			